7　文化☆　2016年（平成28年）9月10日（土曜日）　中日新聞（夕刊）　（第3種郵便物認可）

文化芸能

日本文化にのめり込み本出版　クリストフ・マルケさん（美術研究者）

大津絵の魅力を発信

「大津絵」といってピンとくる人は、地元滋賀県にゆかりの人か古美術好きに限られるかもしれない。そんな通好みな絵画世界を初心者向けに解説した『大津絵―民衆的諷刺の世界』（角川ソフィア文庫）をフランス人が出したと聞いて、著者に会いに行った。

八月の暑い午後。東京・恵比寿にある日仏会館内の住まいで、クリストフ・マルケさん(五一)は、五年間のフランス国立日本研究センター所長の任期を終え、帰国する荷造りのさなかだった。日本で手に入れた大津絵のひとつ「鬼の念仏」を壁に掛け、うれしそうに軽やかな日本語で話し始めた。「鬼は大津絵によく出てくる画題で、一番面白いんです」

墨染めの僧衣を着た鬼が唐傘を背負い、寄進者の名を記す奉加帳を左手に、胸に掛けた鉦を打つ撞木を右手に持ち、念仏を唱えながら歩く勧進僧に扮している。形式を取り繕って偽善をなす人を風刺したとも解釈されるが「本当の意味は分からない。研究の余地があります」と真摯な美術研究者の顔を見せる。

大津絵は、江戸時代に東海道最大の宿場町だった大津の西端、追分・大谷辺りで、土産物として旅人に売られていた。絵の具も紙も上等ではなく、客の注文に応じて職人がその場で描いてみせた。「速い、安い」が身上で、素朴でユーモラスな「ヘタウマ」が持ち味。初期の十七世紀には阿弥陀仏や大黒のような神仏が描かれ、次いで「鬼の念仏」などの戯画や道徳的な教訓絵が、十九世紀以降は縁結びの「藤娘」、水難よけの「瓢箪鯰」など、護符として十種の画題に集約された。

「大津絵は誰にでも面白く分かりやすい。画題は普遍的で、ローカルな郷土芸術とは違います。江戸の浮世絵と並ぶ土産物として、都に来る全国のお客さんをターゲットにして日本中に広まりました。井原西鶴が書いた『好色一代男』の中に、越後寺泊の遊女屋で屏風に貼り交ぜられていたという記述があります。松尾芭蕉も『大津絵の筆のはじめは何仏』という句を詠んでいます。歌舞伎の演目にもなっていて、大津絵を知らないと江戸文学や歌舞伎は理解できません」

現代では忘れられていた大津絵の価値と魅力を語りだすと止まらないマルケさん。その出合いはフランスでの大学時代にさかのぼる。もとは西洋美術史を勉強していたが、誰も研究していない分野を学びたいと日本美術史を志す。そのためには日本語の習得が不可欠だと、国立東洋言語文化大学の日本語学科に入学。正岡子規について修士論文を書くために晩年の随筆を読み、子規が弟子から贈られた大津絵に心を寄せていたことを知った。「大津絵って何？」と図書館で調べたのが最初だった。

その後、東京大学に留学し、明治時代の洋画家・浅井忠を研究する中で、フランス帰りの浅井が大津絵のデザイン性に目覚め「西洋人に紹介してやったら非常に受けるだろう」と指摘しているのを知り、驚いた。

二〇〇八年、パリの美術館で、柳宗悦が提唱した民芸運動とフランスの現代デザインとのつながりを探る展覧会が開かれた。柳は大津絵の収集家であり研究者だったが、展覧会では大津絵に触れられていないことに疑問を持った。

「柳は大津絵を無名の職人によって量産され、特定の用途に作られた『民画』と位置付け、初期の作品にしか価値を認めていなかった。大津絵は大正時代にも篆刻家の楠瀬日年によって新たに作られたが、見るに堪えないと排除された。ここをもう一度考え直す必要がある」と研究にのめり込んだ。

昨年、フランスで欧米初となる大津絵の入門書を出版。今回の文庫本はその日本語版だ。日年が描いた七十八種の画題もカラーで載せている。「大津絵は江戸時代で終わったのではない。現代作家の村上隆が新しく作っても面白いでしょう」とマルケさん。

帰国を前に大津市から「びわ湖大津PR大使」に任命された。今後はパリから情報を発信する。「次のステップはフランスで古い大津絵の展覧会をやることです」。大津絵の復権を世界規模で目指している。

（矢島智子）

大波小波

「今日、ママンが死んだ。あるいは昨日かもしれない」、これはカミュ『異邦人』の有名な書き出しじゃが、〈今日、世界は死んだ。もしかすると昨日かもしれない〉という大作が、東京都写真美術館の「杉本博司　ロスト・ヒューマン」展で展示されておる。

二〇一四年にパリで話題になった展示の日本版で、「世界保健機関事務局長から「ラブドール・アンジェ」まで三十三のキャラクターが、タイトルの言葉に続けて文明が滅びた顚末を告白、合わせて古道具や雑誌などが陳列されておる。文章は浅田彰や福岡伸一らの代筆じゃが、すべて杉本が考えたらしい。これが妙に説得力があるんじゃ。

文明が終わった理由

「政治家」いわく「暮らしは良くなることを、国民に約束した私は馬鹿だった。資本主義の拡大再生産には限界のある事を（略）知っていながら、私は薔薇色の未来を（略）喧伝せざるを得なかった。景気が悪くなる度に（略）国債発行で未来に借金を重ねた」「私は幸福を求めすぎて、絶滅を呼んでしまった」。

付け合わせはスターリンやチャーチル、トランプらを表紙にした『TIME』誌。安倍マリオこそおらんが、否が応にもわれらが進む道を考えさせられる。皮肉が効いたこの展覧会、必見ですぞ。（ヒゲじい）

2016.9.10

土曜訪問

コンパス

フィクション

産経新聞社の雑誌「正論」で、新シリーズ「日本虚人列伝」が始まった。筆者は評論家の小浜逸郎氏。初回は瀬戸内寂聴氏を取り上げている。胆のうがんなど重病と闘いつつ、九十歳を過ぎてもなお小説を書き続け、さらには震災の被災者の支援や反原発の活動に心を砕く作家と、《虚人》という語がもたらすイメージが結びつかないまま、読んでみた。

驚いた。瀬戸内氏が小説で描いた人物にこと寄せて、氏自身に「天性のふしだらさ」「前後見境ない資質」という言葉が投げ付けられる。また、僧籍に入った後も永山則夫や永田洋子、あるいは政治を考える学生の団体「SEALDs（シールズ）」などと接してきたことから「自分の活動をさらに世間に知らしめたいという俗世の欲の虜」と呼ぶ。これは論評の顔をした人身攻撃ではないか。

瀬戸内氏の発言や行動は、「正論」の主張とは違う。だが、他者の人格をおとしめるような言説を掲載することは、雑誌の品格をおとしめ、読む者の心や言葉を荒れた、貧しいものにするだろう。

文末には、本文より太い活字で「この文章は、今はご壮健の瀬戸内寂聴さんが亡くなられた後の未来に書かれたというフィクションです」とある。おや。「正論」は言論誌だと思っていたが、フィクションの雑誌だったのか。（三品信）

短歌月評

光森　裕樹

プログラマーのいなにわと、文筆家のせきしろによる『偶然短歌』（飛鳥新社、写真）という風変わりな一冊が出た。誰でも自由に編集・参照することができるインターネット上の百科事典「ウィキペディア日本語版」の膨大な文章から、偶然五七五七七の短歌形式になっている箇所をプログラムによって機械的に抽出してゆく。インターネットの交流サイトでもすでに歌が発表されており、大きな話題になっていたが、同書はせきしろが選をした上でコメントを付けたものである。例えばこんな一首が紹介されている。

・そんな中、白いくじらが出現し、歓喜の声を上げる船長

こちらは「ウィキペディア日本語版」において、トムとジェリーの短編アニメーション「白いくじら」を解説するページから抽出された〈偶然短歌〉である。感想は読者それぞれであろうが、指で数えると確かに五七五七七の定型に収まっている。

「白いくじら」で思い出したことがある。二十年ほど前に、聖書から一定の規則に従って文字を拾うと大きな事件を示唆する予言が現れるとする『聖書の暗号』が賛否を呼んだ。ある数学者が、文章量のある書物ならば、そこから〈予言〉を抽出するのはたやすいとして例証に用いたのが、メルヴィルの長編小説『白鯨』であった。

聖書から予言を導くこととインターネットから短歌を抽出すること。長大な文章が必然的に含む〈偶然〉を見つけるという意味では両者は同じであるが、その落差に時代の変化を感じる。ただ、いなにわが巻末に〈偶然短歌〉を抽出するためのプログラムを掲載していることが象徴するように、個人が膨大なデータを手軽に分析できる時代が来ていることは注目に値する。

偶然短歌と歌の分析

例えば、この〈短歌ではない文章から五七五七七を抽出するプログラム〉に、任意の歌集に収められた全ての短歌をくぐらせてみるとどうなるだろうか。一見意味のないことのように思えるが、そうではない。字余りや字足らずを含む歌や、一音節の途中に句切れを持つような破調とされる歌は抽出されないであろう。つまり、歌集から定型に収まる歌と破調である歌を区別することができる。もちろん、文語と口語が一首に混在することもあるので特別な調整は必要であり、正確な区別のためには目視による最終確認も必要だが、例えば特定の時代の膨大な短歌の傾向をすばやく分析する際に、役立つかもしれない。

インターネットが短歌作品やその発表形態に与えた影響については、すでに多くの議論がある。一方で、歌論や評論においてはどうだろうか。

コンピューター社会であることがもたらした、新しい分析方法や視点のヒントを『偶然短歌』に感じたのである。

（みつもり・ゆうき＝歌人）

明治大がユニーク講座

「明治大学リバティアカデミー」は10～11月、古書店、新刊書店が並ぶ東京・神田神保町のユニークな一面にふれる公開講座「本の街の食文化」を東京都千代田区の明治大駿河台キャンパスなどで開く。中華やカレーなどの料理店、個性的な喫茶店が根付く背景に何があるのか、大学教授や評論家、飲食店主らがレクチャー。10月1日から11月26日まで、隔週で土曜日に開講。「文士が食べた神保町」「神保町中華街の形成と変遷」といった講義が4回、創業40年以上の紅茶専門店を訪ねる「フィールドワーク」が1回という構成だ。

全5回の受講料は5000円で、フィールドワークは別途、紅茶代500円が必要。定員40人。問い合わせ・申し込みは同アカデミー事務局＝電03・3296・4423、またはホームページへ。

Evening Spot
暮らしに役立つ情報をお届けします
イブニングスポット
★本欄広告のお申し込みは 中日新聞広告一部 ☎052-221-0690
No.1411
※プレゼント、招待公演などの応募の際にお送りいただいた個人情報は、賞品などの発送以外には使用いたしません

Presents　リフォーム業者選びで失敗しない
「虎の巻」を２冊セットでプレゼント！

優良工事店ネットワーク愛知より「リフォームの青本と赤本」を２冊セットで300名にプレゼント。優良な工事会社を探し出す方法などが満載です。虎の巻を読んで、最低限の知識を身に付けませんか？

応募方法は電話での申し込み、またはＦＡＸかハガキに「郵便番号・住所・氏名・性別・電話番号・虎の巻プレゼント希望」を明記の上ご応募ください。

〈電話〉0120-146-064（９時～17時・無休）
〈ＦＡＸ〉0120-146-067（24時間受付）
〈ハガキ〉〒467-0878 名古屋市瑞穂区船原町3-5-2「優良工事店ネットワーク愛知」宛※応募締切：2016年９月24日（土）※建築・不動産関係者の応募は不可。
※当選は賞品の発送をもって代えさせて頂きます。

優良工事店ネットワーク愛知　0120-146-064

Presents　2016年版「投資信託ガイド」を読者にプレゼント！　投資信託協会

投資信託協会では、投資信託の仕組みや情報の入手方法などをわかりやすく解説した2016年版の「投資信託ガイド」と「REITガイド」を発行！これから投資をはじめる人を応援する税制優遇制度NISAやお子さまの将来のためのジュニアNISAについても紹介しています。希望者には「知っておきたい！投資の基本」「なるほど！　投資信託説明書ガイド」とともに、４冊セットでプレゼント！▽申込み：はがきに郵便番号、住所、氏名を明記し、〒103-0026　東京都中央区日本橋兜町2-1東証ビル６階　投資信託協会Ｃ係まで。下記ＨＰからも応募可能。

※個人情報は、ガイドブックの送付と同協会が開催するセミナー案内の目的以外には使用されません。

投資信託協会応募ＨＰ　http://www.toushin.or.jp/guidebook/

Information　ｉモードケイタイからドコモスマホで
最大２年基本料金が半額以下に

ｉモードケイタイからスマホのとりかえで、最大２年間基本使用料が半額以下になる「はじめてスマホ割」が８月５日からスタート（申し込み期限は10月31日まで）。

例えば、シェアパック子回線の人なら月々の基本使用料が1,980円になる（「カケホーダイプラン（スマホ／タブ）」（2,700円／月）とｓｐモード（300円／月）とシェアオプション（500円／月）から「はじめてスマホ割」（1,520円割引／月）を適用した合計額。別途、機種代金、登録手数料などがかかる）。

また、この機会に家族もスマホを同時購入すると「家族まとめて割」でさらにお得に。

料金の詳細や条件などは、ドコモのホームページか全国のドコモショップでご確認ください。

ドコモホームページ　https://www.nttdocomo.co.jp

石原真弓の大人のためのゆっくり学ぶ英語教室

中学で習った英語をやり直したい。外国人に話しかけられても困らないようにしたい。そんなあなたのための１冊。本書のキモは、これさえ覚えておけばなんとかなる★40の英会話基本フレーズ★!!あいさつ、自分のことを話す、質問する、相手を気遣う、頼みごとをする、困っている人を助ける…など、さまざまな状況でそのまま使える例文を紹介。初級～プレ中級者がつまずきやすいポイントは、「なるほど！」「そうだったのか！」満載の解説つき。そのまま読むだけでネイティブスピーカーの英語に近づく【石原真弓式発音ふりがな】もついている。カンタンなのに意外と困る表現の数々。あなたは英語で言えますか？●調子はどう？●おつかれさまでした●ここを道なりに行ってください

定価1,300円（税別）

小学館　https://www.shogakukan.co.jp/books/09310538